

平成23年1月6日

【木曜日】

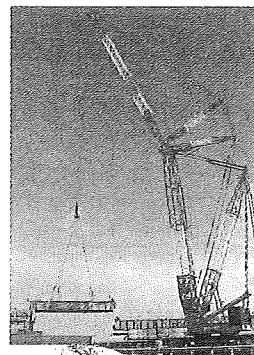
【岩見沢発】旧清幌橋

解体工事の施工に当たる
富坂・山田組・豊松吉 JVは、六百五十tまで吊
上げ可能なクローラークレーンを導入した。上部
に伸びるラフティングジブを付けて作業するのは
道内初。オペレーターが
高い技術で操作し、四ブ
ロックの橋解体作業を進
めた(写真)。

同JVが施工している
のは、札幌建管発注の「栗
沢南幌線交付金13改築工
事で、工期は昨年九月
十七日からことし三月三
十日までとなっている。

これまで橋面のアスフ
アルトと床版コンクリートを剥がす作業は、六十
日間で完了した。

五tクローラークレーン
で進めてきたが、川の上
に架かる橋桁本体は、広
い作業範囲



650トンの大型クレーン導入

宮坂・山田組・豊松吉 JV

ラフティングジブ装着は道内初

Xクローラークレーン
(六五〇t)を導入し
た。車体から伸びる三十六
tのジブと、その上部の
六十tのラフティングジ
ブにより作業半径を拡
大。車両に重りを付ける
ことで、六百五十tの吊
上げが可能となつてい
る。一台約七億円で全国
に二台しかなく、ラフテ
ィングジブを付けて作業
するのは道内では同現場
で初めてとなる。

福浦弘幸工事事務所長

によると、「冬期における高所作業のため転落事故を防ぐ

よう呼びかけている。約

八十tあるクローラーク

レーンの操作には高度な

技術が必要であり、特に

風に注意しなければいけ

ない」と話していた。

このクレーンによる作業範囲を可能とするクレーンが需要に。このため、一ノリで、重さ二十七t十五tに及ぶ桁を、合計四日立往復重機建機ク

一ブロック十六t、二十三

tで、重さ二十七t十五tに及ぶ桁を、合計四

日立往復重機建機ク

一ブロック解体した。

作業員が、切断した桁

を千寧に一筋ほど吊り上

げ、ゆっくりと地面に下

ろす作業を繰り返した。

下ろされた橋桁は六点

とに切断され、トレーラーで運ばれていった。

八月三十日、解体工事

は終了した。